

〈私の〉素描展

The message from

Y. Kazuo

Museum of Misumi

～美術館からのメッセージ～

平成12年2月5日(土)～5月28日(日)

デッサン・素描をすることは ものを触感を通して 知る方法である —香月泰男—

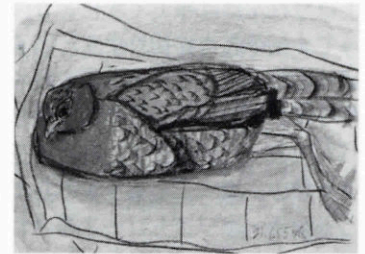


石を刻む 52.5×31.5

一流画家の生涯は、北斎にせよピカソにせよ、きびしい素描の修練に明け暮れた。香月も例外ではない。絵になるものは数かぎりなくあり、素描の研磨に終点はないから、北斎やピカソや香月が残した素描の名品は夥しい数にのぼる。なまやさしい修練であるはずはないのだが、不思議なことにそれらのどの一枚にも画家の楽しさが溢れている。それもまた一流の共通点なのである。当然その事実は画家が素描の修練を心底楽しんでいた証拠でなくて何であろう。

素描<デッサン>とは、対象の本質をずばりと、しかも簡潔に把握することである。東洋への回帰を目指した香月が、するどくも自由な線と、黒を基調にした少ない色彩とで生み出した素描の数々。いわば香月独自の浄土ともいふべき素描の前で、人はそれぞれ自分の浄土発見の楽しさに浸る。そこには見慣れた草木や虫が見える。どこにもある台所の鍋や皿、お馴染みの魚介類がある。動物がいて人がいる。もちろん山あり海あり、雲が行く。そして香月の心と目が晩年に到達したのが、墨による素描であった。これは香月によって初めてなされた手法であり、画壇の画期的収穫である。

ほんものの不断の修練と深い境地を、素描は人々の前に惜しげもなく晒している。



雉子 31.3×41.1 1955 (素描)

- 〔子ども向〕
- 「いいことしちやいけないの」
- 〔文〕ブリジット・ヴェニンガ
- 〔絵〕イブ・タルレ / 講談社
- 「あなたが生まれるまで」
- 〔作〕ジェニファー・デイビス
- 〔絵〕ローラ・コーネル / 小学館
- 「色の女王」
- 〔作〕ユッタ・パウアー / 小学館
- 「アイ・ラヴ・ユー」
- 〔著〕岡崎由紀子 / ひくまの出版

新刊図書紹介

トレセン図書室より

- 〔大人向〕
- 「いよよ華やぐ」上・下
- 〔著〕瀬戸内寂聴 / 新潮社
- 「何ものも恐れるな」
- 上・中・下
- 〔著〕ディーン・クーンツ / アカデミー出版
- 「八十路から眺めれば」
- 〔著〕マルコム・カウリー / 草思社
- 「医者が患者をだますとき」
- 〔著〕ロバート・メンデルソン / 草思社
- 「恋愛動物占い」
- 〔著〕動物占いプロジェクト / 小学館

お父さんたちの 家庭教育学級

核家族化や共働き世帯の増加にともない、子どもをとりまく環境も大きく変化してきました。

そんな中で、お父さんの役割を考えてみませんか。

日時 平成12年2月18日(金) 19:00～21:00

会場 農業者トレーニングセンター2階研修室

内容 講話「人間性を育てる父親の役割」

講師 東京家庭教育研究所

講師 東條りえ先生

対象 お父さんなら、どなたでも参加できます。

参加料 無料

その他 お父さん以外の希望者も聴講できます。

問い合わせ先

三隅町公民館へ ☎43-0811

